

## CAPD：透析液交換

**Q 8** 私は高齢の腹膜透析 (PD) 患者ですが、高齢でも1日4回の透析液交換が必要ですか？

**A 8** PD療法は、1日に4回の透析液交換をする持続携行式腹膜透析 (CAPD) が基本です。しかし、高齢のPD患者さんでは尿量の保持が得られやすいことから、当院では、尿量が十分あり、臨床検査値の良好な高齢の方には、1日2～3回、必要最小限の量の透析液注入を実施しています。また、夜間に透析液を貯留しない腹膜透析 (夜間バッグフリーまたはドライナイト) を積極的に行っていきます。この方法によって、長時間のブドウ糖液の貯留による除水不足、浮腫を防ぎ、透析液中へのタンパク漏出を最小限にすることができるとともに、1日8～12時間の腹膜休息 (ブドウ糖負荷の回避) ができます。また、将来、尿量が少なくなったり透析不足になった場合、夜間に貯留を開始することができるため、透析量の余裕を持つことができます。

そして、長時間貯留することが可能な透析液であるイコデキストリン透析液 (エクストラニール®) を昼間に使用することによって、バッグの交換回数を減らすことができます。若年の方では、使用透析液量の減少は透析不足を招くことが心配されますが、尿量が保持された高齢の方では透析不足にならず、必要最小限の透析で良好なQOLが得られることになります。そして、PD療法を支援している家族の方にも、昼間のバッグ交換が減ることは大きなメリットとなります。

さらなる高齢化社会に向けて、高齢の透析患者さんは増加の一途にあります。高齢の方が在宅医療である“腹膜透析”を安心して選べるためには、高齢の方に適した腹膜透析処方が必要と考えられます。

(平松 信/岡山済生会総合病院・医師)